

# 鳥取労働局長がベストプラクティス企業 「株式会社ラークコーポレーション 三朝館」 と意見交換を行いました！

鳥取労働局では、時間外労働の削減をはじめとする働き方改革に積極的に取り組む「ベストプラクティス企業」と意見交換を行い、取組事例を収集するとともに、その取組について県内の企業に広く紹介しています。

令和7年度は、旅館業において業務簡素化や業務分担の見直しによる労働時間の削減や働きやすい職場環境の構築などに取り組んでいる「株式会社ラークコーポレーション 三朝館」を「ベストプラクティス企業」として、同社と鳥取労働局長による意見交換を行いました。

## ○令和7年度ベストプラクティス企業

- (1) 名称：株式会社ラークコーポレーション 三朝館（以下「三朝館」）
- (2) 所在地：鳥取県東伯郡三朝町山田174
- (3) 代表者：代表取締役社長 沖田 繁子
- (4) 従業員数：81名（令和7年10月20日時点）
- (5) 事業内容：宿泊業

## ○意見交換について

令和7年11月26日（水）に三朝館を鳥取労働局・山下局長が訪問しました。

当日、三朝館からは、小山相談役、井勢総務経理部長、富村様の3名の方にご対応いただきました。

まず、井勢総務経理部長から三朝館の概要及び働き方改革などの取組についてご説明いただきました。

その後、業務効率化等の従業員の方の働きやすさも考慮した上で数年前に改修が行われた食事会場の見学をさせていただき、見学後に取組に関する質疑応答や意見交換を行いました。



【三朝館の外観】



【意見交換の様子】

## ○主な取組の内容

- 朝食を会席からビュッフェスタイルに変更  
→ 3割程度の人数で対応できるようになり、以前は朝と夜の1日2回勤務であり、長時間勤務になっていたが、通常期であれば朝の勤務は一人当たり週1～2回程度に減らすことができ、長時間勤務を抑制
- 客室案内時に口頭での説明を書面や電子に変更、お茶出しの省略  
→ 客室の案内に係る時間を削減
- リアルタイムで労働時間を管理  
→ 特に長時間労働になっていた調理部門においては、毎週の時間外労働の状況を月間の予測時間数とともに部署内で共有  
加えて、一定の個人に業務が集中しないよう、それぞれが複数の業務を担えるようマルチタスク化を推進し、時間外労働を平準化
- 休憩時間を掲示して明確化することで確実に取得  
→ 以前は休憩時間が不明瞭であり、取れなかった分は長時間労働に繋がっていた。掲示して明確化することで休憩時間を確保するとともに、自身が休憩時間中に対応する必要が発生した際には、別の係が代わりに担当することで、確実に取得
- 職場内の情報共有等のシステム化  
→ 職場内の情報共有に業務用スマートフォンのアプリを使用、宴会会場からの飲み物のオーダーを以前は紙の受け渡しで行っていたものをシステム化するなどの取組により大幅に手間が削減
- 従業員の働きやすさも踏まえた食事会場の改修  
→ 食事会場をリニューアルする際に、バックヤードも含めて通路を拡大し小上がりになっていた部分をなくすことで、料理の運搬に台車を使用することができるなど従業員の業務効率が大幅に向上



【取組を説明される三朝館・井勢部長  
(右から3人目)】

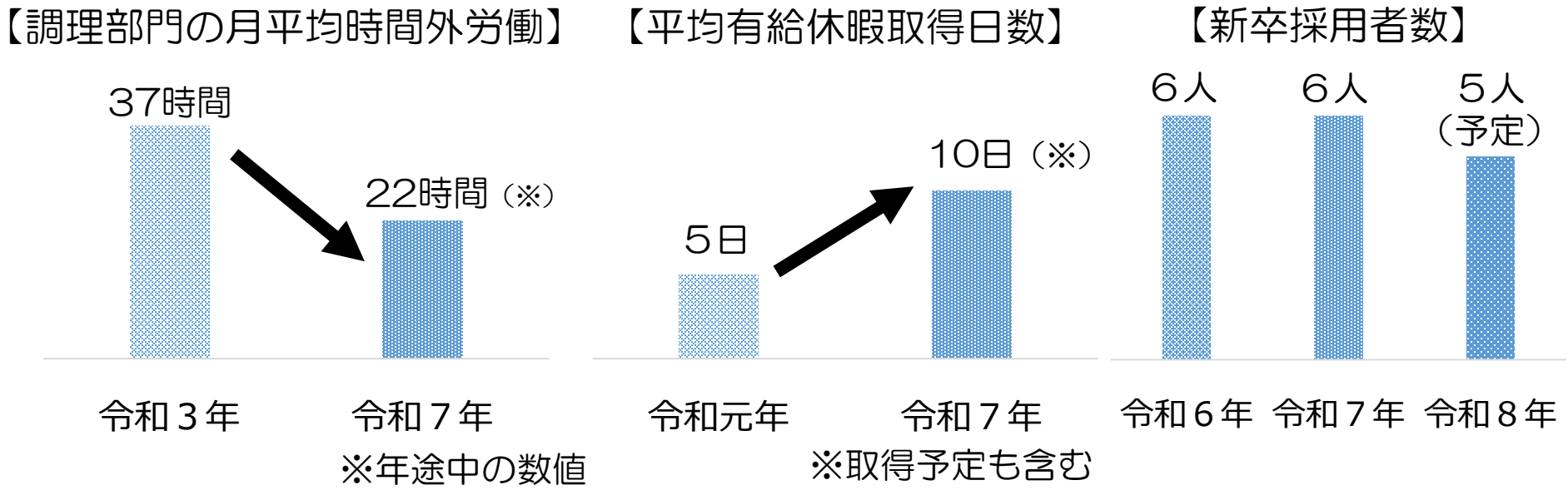


【改修した食事会場の見学】



## ○取組の成果

各種取組により、時間外労働の削減、有給休暇取得日数の向上、安定した新規採用などの効果が得られている。



## ○意見交換の主な内容

- Q 働き方改革で労働時間が減るとその分収入が減ってしまうという声もあるが、三朝館ではいかがか？
- A 三朝館では近年賃金引上げを毎年行っており、労働時間を削減した前後で収入が減らないようにしている。休みが多くなることや早く帰宅できることに対する従業員の満足感は大いと感じている。
- Q 宿泊客のチェックインが遅くなることで夕食時間も遅くなり、調理部門の方の時間外労働が長くなってしまおうという状況を聞いたことがあるが、三朝館でも同様か？
- A 三朝館では、事前に夕食時間を説明するなどにより宿泊者にも理解や協力を求め、そのようにならないよう取り組んでいる。
- Q 入社数年で離職するなど、若い方の離職を防ぐために何か取組を実施しているか？
- A ミスマッチを防ぐことが重要だと考えており、入社前に実際に働く場所をバックヤードまで見てもらうことや先輩社員から話を聞くことで働くイメージを具体的に持ってもらっている。



【左から三朝館・富村様、井勢部長、小山相談役、鳥取労働局・山下局長】

## ○意見交換を終えて山下労働局長からのコメント

旅館業では一般的に長時間労働や休みが取りにくいなど厳しい労働環境であることが言われていますが、今回意見交換を行わせていただいた三朝館では食事スタイルの見直しや業務分担の見直し、業務効率化など、従業員の働きやすさも意識して地道に取り組まれている点が印象的でした。

我々労働局としても、今回の結果を積極的に周知していくとともに、県内の企業におかれても積極的な取組をお願いいたします。